

受験生の心理と保護者の役割を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2) 今日は、「受験生の心理と親の役割」についてお話をさせていただきます。明日 22 日付けの下野新聞に「必勝受験塾 林明夫塾長の中 3 生指南」が掲載されます。これは、私が執筆を担当したコーナーです。その内容を一日早く、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

2. 受験生は、「受験生としての自覚」をもつこと

(1) 受験生の皆様に望むことは、「受験生としての自覚」をもっていただきたいということです。そして、お父さんやお母さん、おじいさん、おばあさんなどの保護者の皆様に望むことは、受験生に「受験生としての自覚」をもつように促していただきたいということです。これが、私の今日の話の結論です。

(2) 高校入試や大学入試などの試験に挑まれる方は、合格するかどうかを非常に心配します。それがもとで勉強が手に付かなくなる方もいるほどです。

(3) それを克服するにはどうしたらよいかをお話します。高校入試は、ほとんどの方にとって自分の進路を決定する生まれて初めての本格的な試験です。大学入試も、進路を決定する上での本格的な試験という点では同様です。

(4) ですから、皆様が不安を抱くのはよくわかります。しかし、不安なのは自分一人だけではなく、試験を受ける全員なのです。心配だ、どうしようといくら悩んでも成績は上がりません。学力も身に付きません。そこで、私が提案したいのは、悩む時間・心配する時間は 1 日 30 分までと決めることです。そして、悩み心配する時間があるのなら、それを勉強時間にまわしたほうがよいというのが私の提案です。

(5) 不安を取り去るには、「自分は受験生であるという自覚」を強くもつことです。自己責任(自分のことには自分で責任を持つ)・自助努力(自分の身は自分で助ける)で、自分の未来・これからの人生を自分自身で切り開いていくのだと思うことが一番大事になります。その自己責任・自助努力で取り組む第一歩が、高校入試であり、大学入試であり、いろいろな試験であると考えれ

ば、あとは楽です。()受験生の皆様は自分の行きたい学校を自分にとっての一流校と考えて、受験生としての自覚をもちその合格を目指して毎日毎日を大切に過ごすことがとても大切であると思います。

3. 受験生をもつ保護者の役割

(1)次に、受験生をもつ保護者の皆様の役割についてお話しします。中3生の受験生がいるのであれば、もうすぐ9年間の義務教育が終わるのだから、これからは自己責任・自助努力で生きることが大切であると教えてあげて下さい。例えば、自分で決めた高校には自分の力で合格しなさいと、受験生としての自覚を持つように促すことが保護者の役割であると思います。

(2)保護者としてしたほうがよいこと・しないほうがよいことは、このほかにもあります。

お子様の勉強中は、できる限りテレビなどの音量を下げるようにして下さい。また、近くで大声を出したり歓談したりすることも控えたほうがよいです。お子様の気が散ってしまい、受験勉強に集中できないからです。

自分たちだけ楽しみ、子どもには勉強させようというのはあまりにも虫がいい話です。

一番よいのは、お父さんやお母さん、おじいさん、おばあさんも一緒になって静かに読書をしたり新聞を読んだりすることです。そして、読書によって思慮深さを身に付け、新聞を読んでじっくり考え批判的思考能力を身に付けようとする大人としての姿を、受験生であるお子様に見せることをお勧めいたします。「背中で教える」という言葉もありますね。

一方、やってはいけないことは、「勉強は入試本番までやればよい」「合格したら、そのあとは遊んでもよい」などとお子様言うことです。そのようなことを言ってしまうと、子どもは本気にして高校に入ってから、あるいは大学に進学してから全然勉強しなくなってしまうので、それらの言葉は決して口にしないで下さい。

逆に、「怠け者には福は来ないよ」「今やっている勉強は、高校入学後、大学入学後に役に立ち、社会に出てからはもっと役に立つ。だから、今しっかりと受験勉強をして今後に備えたほうがよい」と言っていたきたいと思います。きちんと受験勉強をするように励ますのも、保護者の役割だと私は考えます。

4. おわりに

ぜひ皆様にも「受験生の心理と親の役割」について考えていただき、お子様たちが自覚をもって受験勉強できるような状況をつくっていただきたいと思います。

- 2010年11月18日 林明夫記 -